

KTK
NO.103

後援会費郵便替口座
01070-7-32145
あらぐさ後援会

あらぐさ通信

編集 あらぐさ後援会
編集協力 社会福祉法人あらぐさ福祉会
〒617-0813 京都府長岡京市井ノ内広海道42-3
TEL 075-953-9212 FAX 075-953-9215

新しい仲間を迎えて



春が訪れ、あらぐさの桜も満開に！今年も恒例のお花見会が行われました。

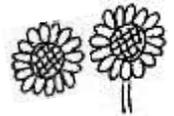
いい天気の中、ウクレレの音楽に合わせて歌ったり手拍子をしたり、ダンスをしたりと、にぎやかに過ごしました。中にはおやつのお団子が気になる人も……。それぞれお花見を楽しまれていました。

今年度新しく来られた利用者、職員も初めは緊張しているようでしたが、楽しい音楽や雰囲気を感じて、次第に笑顔に。

ときどきわくわくの新年度。一緒に楽しんで笑顔になれることを見つけていきたいと思います。

2019年度 第8回みんなおいでよ～あらぐさひろば 10月5日(土)開催 (次号詳細)

歩み続けるぼく



家族、地域、障がいのある仲間とともに

馨(かおる)さんは32歳。弟さんと2人兄弟。あらかさでは花づくりやポットの土づくり。手仕事はビーズ工芸をしています。カタログ販売でも活躍しています。

おいたち



吹田にいる頃、お母さんは里帰り出産を望み、馨さんは実家のある伊賀上野市民病院で誕生しました。予定日を過ぎ、骨盤位で臍の緒も巻いていたので帝王切開での出産になりました。3400gと大きな赤ちゃんでした。お腹の中で苦しかったでしょう、チアノーゼが出るなど低酸素状態でした。早期の祖父の気づき、病院の連携と対処、そして本人の生命力で乗り越えました。

4か月検診後は、吹田市済生会病院内の療育教室でボイタ法の訓練を開始しました。1歳頃、向日市に転居したので2歳からは電車で療育教室に通いました。馨さんが先生から訓練を受けている時、お母さん同士で話をしていました。自宅での訓練は1日3回。泣き叫ぶ声に近所の方も心配されていて負けてしまいそうでした。でも諦めずに母子共に頑張り続けた甲斐あって、3歳になって歩けるようになりました。2歳頃に弟が生まれました。

3歳半の時、初めててんかん発作が出ました。花安医院や済生会病院で診てもらいました。病名が知りたいと思い、須磨の子ども病院に行きました。

そこで、知的障害を伴う脳性巨人症と診断されました。

歩けるようになったので療育教室は終了し、3歳半からポニーの学校、4歳から向日市第4保育所に通いました。加配の先生が付いていました。保育所では、手が汚れたらすぐ洗う、服が汚れたらすぐ着替えるなど、今まで手を掛け過ぎてきたことを教え

られ、反省しました。保育所では発作を起こしたり、よく風邪をひいたりしました。アンパンマンのような丸顔からイチゴ形の顔に変わりました。

向日が丘養護学校からあらかさへ

第5向陽小学校を見学しましたが、友達がいいたので向日が丘養護学校に就学しました。



たこ焼き調理(小学部)

小学部ではよくてんかん発作を起こしたり、尿路感染で入院したりしましたが、山歩きや沢のぼりなどですっかりたくましくなりました。機能訓練や言語訓練もしました。

中学部になると発作

がなくなりました。太寿堂先生と築出先生が担任でした。調理や木工など障がいがあってもできるようにいろいろ工夫しながら学習していました。

高等部になって通年の寄宿舎生活を体験しました。尿路感染でよく熱を出していたので日赤の泌尿器科で診察してもらいました。尿管の弁に隙間があることがわかり、尿路感染は尿の逆流が原因ということでした。府立病院で内視鏡による尿管手術を受けました。尿が出にくいということもあり、尿道狭窄の

手術もしました。手術後、点滴を取りたいなど不自由さで怒り苦しい入院生活でしたが、耐えることができました。そんな状態の後でも高等部の修学旅行に参加することができました。保健の先生にお世話になりました。



卒業後の進路は、向日市のさくらんぼ（あらぐさの前身）を希望しました。卒業時は、あらぐさが法人化される年で、あらぐさを希望するお母さんたちと一緒に向日市と長岡京市へ陳情に行きました。障害児学童保育や育友会活動の中で、クラスは違ってもみんな親同士の交流があり仲間でした。

家や地域のくらし



帰宅後は、相撲を見たり、TV ゲームをしたりしています。できないことは「やって」と母にまわしてきます。夜になると「9時から何見る?」といい、『相棒』や『科捜研』を見ながら寝ていることもあります。一寝入りした後、お父さんとお風呂に入ります。

奈良のおじいちゃんに毎日電話を掛けています。電話におばあちゃんが出ると「おじいちゃんに代わって!」と言っています。おじいちゃんは「13人もいる孫の中で警だけや」と喜んでいます。奈良へ行く時は、警さんのためにミルクティーを買って用意してくれています。電話で「うちにおいて、お風呂も新しくなったで」とおじいちゃんを誘っています。帰宅時、泊まりに来ていたおじいちゃんの姿がないと「いない」と怒っています。

2歳の姪の美空(みく)ちゃん(介護士の弟夫婦の子)とは大の仲良し。いつも警さんの膝の上に座りに行きます。あらぐさから帰って来た時、美空ちゃんがいるととても喜んでいます。



今困っていることは、電気が気になって壊れそうになるくらいつけたり消したりすることです。明るくなくても外の電気をつけることがあります。また、周りの人を自分の方に向かせたい気持ちが強く、お母さんがノートに書いている手を引っ張ったり、運

転中のお父さんの腕を助手席からつかんだりします。お父さんには叱られています。

ガイヘルは、あらぐさサポートセンターで6時間、ヴィケアセンターで7時間利用しています。映画を見たり、電車を見に行ったりしています。ショートスティは月2回。1泊2日ずついろいろとひまわり園に泊まっています。今のところ、これ以上は「行かない!」と主張しています。金曜日には入浴介助に1時間だけヘルパーさんに来てもらっています。



散歩(小学部)

お父さんは定年後も勤めています。土日は家にいることができ、出かけやすくなりました。お母さんは町内でお茶会をするようになりました。鶏冠井町の町内では、20年間の付き合いがあります。

今は、近くの方々12人程で家に来てもらったり、他の家に寄せてもらったり月1回のあつまりを楽しみにしています。災害があった時など、警さんも安心できるように地域の人たちとのつながりの中にいます。お母さんは、みんなから「よう、がんばったな」と言ってもらえています。

これまで、いろいろなサポートを受けて来ました。さらに乙訓の地域に障がいのある人たちの施設がほしいと願っています(戦闘機を買うくらいなら)。



(取材:前田幸子 真殿尊子 森垣美知子)

花卉(かき)生産活動



あらぐさでは 10 種の土や肥料を混ぜ、土を作るところから生産を始めています。土づくりには各グループが集まります。土をブルーシートの上に出し、順番に耕運機を使用して混ぜていきます。大きな土の山を混ぜるのは力も根気も要りますが、普段使用しない耕運機での作業にわくわくしながら挑戦する姿が見られます。

障害福祉センターの活動として花卉生産〈観賞用植物栽培〉を行っています。今年度は春にバーベナ、夏にひまわり、秋冬にピオラを育苗する予定です。

バーベナ、ピオラは大原野に借りた温室ハウスで育苗しています。花卉生産はポットの土入れや播種、液体肥料やり等たくさんの作業工程があります。各グループが協力し合ってそれぞれが得意な作業に取り組んでいます。



5月下旬にはひまわりの播種を行いました。1000粒のひまわりを育苗するのですが、利用者の皆さん最後まで丁寧な播種作業でした。黄色い花びらが見えてくるのを楽しみに、今後も水やりや液体肥料やりを頑張っていきたいと思います。

製品紹介

Cグループ

カップたわし



かわいいコーヒーカップをイメージしたアクリルタワシです。色合いは、基本の白色と赤や青など、いずれかのツートンカラーです。洗剤不要で、カップ上部にあたる部分から指を入れ、食器を洗うことができます。使用後は、持ち手部分を引っかけて乾かすことができます。特徴です。

その他にも、小さな鉢カバーとして、お部屋を彩ることもできます。

担当する利用者が好みの色を選んで配色し、手回しの編み機を使って、一つひとつ丁寧に作り上げている製品です。

販売価格 ¥250 (2つセット)

あらぐさ後援会

2018年度 決算

収入			支出		
	決算	備考		決算	備考
前年度繰越	152,229		通信経費	189,967	通信郵送、作業委託、用紙代
会費収入	610,000	429 団体個人	事業費	223,575	ひろば経費
事業収入	47,100	ひろば模擬店、支援グッズ、みかん売上	事務費	93,443	振込手数料、ハガキ、きょうされん会費等
利子	1	通帳利子	予備費	0	
			寄付	150,000	あらぐさ福祉会へ寄付
計	809,330		計	656,985	

運営費より 150,000 円をあらぐさ福祉会施設整備の資金として寄付します
収支差額 152,345 円は 2019 年度あらぐさ後援会会計に繰り越します

2019 年度 あらぐさ後援会総会開く



5月11日、あらぐさ後援会総会が開かれました。

1部総会 会長あいさつ(メッセージ)、安田理事長から法人報告をお聞きし、その後、審議をおこないました。昨年度事業報告、決算、監査報告及び今年度事業計画、予算を承認し、新役員を選出しました。

昨年度は“あらぐさひろば”を軸にして活動が展開され、会員数は429団体個人でした。支援募金は1,058,644円が寄せられ、一般会計より150,000円を合わせて、1,208,644円をあらぐさ福祉施設整備の資金として法人に寄付しました。

(2018年度決算を5頁、2019年度予算と新役員を7頁に掲載)

2部上映会 総会后、きょうされん40周年記念制作の東日本大震災を描く「星に語りて～Starry Sky～」を一般の方にも呼びかけ鑑賞しました。



星に語りて～Starry Sky～

上映会の感想より

◆気仙川の岸辺に津波で亡くなった孝くんの宝の箱が見つかった。おおざり作業所に通うようになって、生まれて初めて年賀状を仲間からもらった。自分の存在が仲間から祝福されていると感じ、年賀状は孝くんの宝物になった。

又コーヒーを入れて、みんなで飲みたいね、この町のみんなが笑顔になれる町にしたい、と仲間の翔くんが語る。

被災地でとり残された障害のある人や高齢者の人たちに全国から支援の輪がひろがる。作業所に働く仲間たちの参加を得たドキュメンタリータッチの映画。きょうされんの映画作成への決意が伺える。(70代)

映画は

2011年3月11日、東日本大震災発生。その傷跡はいまも人々の心の中に深く刻まれている。あのとき、何が起こっていたのか。障害のある人と支援者はどう生きたのか。当時を知る証言者たちへの取材に基づき、その知らざる実情が描かれている。

◆感動した場面は、自閉症の前田君が1軒1軒救援物資をとどけに行ったシーン。みんな自分のできる事でつながっていきたい。(30代)

◆感動したところは、市役所の方が個人情報(身障者手帳をもっている人の名簿など)を開示したところ。(50代)

◆心にのこったシーンは障害があるがゆえ困っていることは「わがまま」と捉えられる。障害者ばかり助けていたら逆差別になってしまう。……みんなみんなが助けを待っている。(20代)

障害福祉センターあらぐさ 職員

川口 淳子 さん



Aグループに4月から所属しています川口淳子です。3月末まで、大阪市内の地域活動支援センターで働いていました。大阪市の委託事業で運営は大変厳しいですが、少人数の利用者と職員で、アットホームな雰囲気の中、毎日下請けの仕事や自主製品づくり（和紙製品）週に一度の自治会活動（調理実習・誕生日会・野外活動等）に取り組んでいました。

私が就職した頃はまだ無認可の作業所で、養護学校(当時)を卒業されたばかりの方と、就学免除で長い間家で過ごされていた方たちが通所されていました。当時30代後半だったある男性は、小さい頃の高熱で障がい児となり、4歳の頃に家を飛び出し電車事故にあい、左足は膝上、右足は膝下10cm程のところで切断、その後も毎日暴れて若い頃は大変だったとお母さんからお聞きしました。しかし、彼が作業所に出会い毎日通いたい！仕事がしたい！

と強く願い、自分で義足をつけ（紐で縛り上げて固定する）いい笑顔でやってくる姿は今も忘れることが出来ません。段々と麻痺が強くなり、義足をつけるのに長時間かかっても、それでも行きたい！と思う作業所は、彼にとって初めて出会った居場所であり、生きがいの場であったのだと思います。

私自身も彼らが居場所を作ってくれたからこそ、長い間働き続けられたのだと思います。そして、今年度から自分の住む地域で仕事がしたいと思い、バザーにボランティアで参加させて頂いたり、ヘルパーでお世話になっていて勝手に身近に感じているあらぐさで働かせてもらう事になりました。ここが私の居場所になるように、まずは利用者さんのことを知り、知ってもらう事を目標に「明るく・楽しく・元気に」続けていきたいと思っています。よろしくお願ひ致します。

あらぐさ後援会 2019年度 予算

収入		支出	
	予算		予算
前年度繰越	152,345	通信経費	200,000
会費収入	700,000	事業費	250,000
事業収入	100,000	事務費	100,000
		予備費	152,345
		法人寄付	250,000
計	952,345	計	952,345

2019年度 役員

会長：野々下靖子
 副会長：中川千津子 増田康夫
 事務局長：松村誠
 会計：今西さよ子
 役員：稲葉薫 角摂子 三浦朱葉
 三谷文菜 宮本靖子 森垣美知子
 会計監査：大江文子 岩崎京子

あらぐさ後援会 加入・募金 ありがとうございます

2018年12月1日～2019年3月31日 敬称略・順不同

粟田士郎 粟田紀江 粟野賢 生路智子 池田
恭子 池田芳子 井古テル子 伊藤恵一 伊藤
弘紀 井上はる奈 射場隆 今井和子 今西
さよ子 今西正恭 植田進 大江恵子 大江貴光
大江延佳 太田政喜 かじゅ美 鎌田桂子 河合
隆平 木村篤哉 鞍貫梢 佐藤敦子 佐名木良実
佐野さかえ 清水富子 高橋征吾 高橋明美
多田美智恵 田中洋行 田中洋子 谷川邦宏
谷口忠行 谷口弘子 築出邦子 辻真菜美

中川慶子 中川政之 中川千津子 長島里香
中西郁子 中村時雄 西山俊太郎 日本基督教団
西が丘教会 橋爪早苗 浜野利夫 ばんだ企画
久江公子 ビューティサロンナティ 平野路予
福見厚子 二家知砂 榊井良子 松山幸次 真殿
尊子 水谷和夫 水谷美穂 道場恵美子 森山
正博 山川洋子 山中繁 山本利江 吉瀬順子
吉永純
匿名19名

2019年度
あらぐさ後援会

後援会費納入と



あらぐさ支援募金のおねがい

後援会の更新の時期となりました。会費納入と
支援募金をよろしくお願いします。

あらぐさ支援募金は、あらぐさ福祉会がすすめ
る「暮らしの場」づくりの施設整備を恒常的に支
援することを目的にしています。昨年度の募金で
1,058,644円を社会福祉法人あらぐさ福祉会に寄
付することができました。

あらぐさ後援会

個人 1口 1,000円

団体 1口 2,000円

あらぐさ支援募金

1口 1,000円

- ・同封の振込用紙をご利用ください。
- ・入金と行き違いになりました際にご容赦ください。
- ・後援会費、支援募金には「KTK あらぐさ通信」紙代が含まれています。



1992年6月5日 第3種郵便物承認（毎月1回25日発行）2019年6月17日発行
KTK増刊通巻第4897号 発行所 京都障害者団体定期発行物協会
〒602-8143 京都市上京区堀川通丸太町下ル中之町519 京都社会福祉会館4階
京都障病重内 発行人 高谷修 頒価50円（購読料は会費に含まれています）

KTK

あらぐさ通信